

「連絡帳」記述文の ICF による分類 —ICF を活用した連携の可能性を探る—

下尾 直子（日本女子大学大学院）

【目的】 連絡帳の記述文を分析し、連絡帳の情報を簡便に整理するための方法を探る。

連絡帳は、保護者と教師双方にその重要性が認められている連携の手段のひとつである。が、通常は、手紙文の形式で記述されることが多く、その使用は日常のやり取りに終始し、記述された膨大な情報は整理されないまま担任と保護者の記憶の中にのみとどまることが多い。

そこで、まず、連絡帳には何が書かれているかを ICF（国際生活機能分類）に基づいて分析する。連絡帳には、主に何がどのように書かれているか、これを分析することによって、今後連絡帳の記述を整理し情報として活用することのできる方法を探る一助になると考えた。

【方法】

個別支援学級・特別支援学校で使用された連絡帳を保護者を通して 18 冊入手した。一冊の連絡帳について、最初の 5 日分と最後の 5 日分を取り出した。保護者と教師の記録それぞれについて、文章を意味ごとにカテゴリー化したのち、ICF の項目で分類し、可能な限り第一評価点を付記した。なお、評価点に関しては、厚生労働省が 2007 年 3 月にだした基準によって評定した。

【結果】

1. 連絡帳には「実行状況」の記述が多い

1) 参加や活動の実行状況をそのまま記述するもの

冬休み、ボール投げやサッカーを楽しくして過ごしました。 小1 男子母記述
p8803 共同遊び. 0

給食当番をしました。お箸を配る役でした。最初は二人でしましたので、私がやめてからもしばらくは調子よく出来ていましたが、途中で一本しか置かなかったり、やめてしまったりしました。 小2 女子担任記述
p632 (調理の手伝い；配膳) . 3

2) 参加や活動の「実行状況」から「能力」を推定するもの

珍しく、朝知らないうちに起きて、勝手に冷蔵庫にあったのを使って朝食を作って食べていました。なんとマヨネーズで卵を炒めてチャーハンを作って。包丁は一人で使えないので使わなくていい卵を使うあたり、感心しました。キッチンは後片付けをせず、こぼれたご飯で汚くなっていました。でも、少し前には、トーストを焼くのも難しかったのに、こんなことが出来るようになったなんてちょっと感動しました。 中2 女子母記述

a6300(簡単な食事の調理). 0 1←2 注：←は過去からの向上
a6401(台所の掃除と台所用具の洗浄). 3

3) 参加や活動の「実行状況」を他の要素との関連で分析・説明するもの

① 分析的な記述：参加や活動の「実行状況」を「環境因子」との関連で分析するもの

今日の文化祭の予行練習、体育館の中でも舞台の上でも耳ふさぎでした。マイクを入れる音やブザーの音が気になるようです。

小6 男子担任記述

p9202（芸術と文化）． 4

e250（音）． -3

② 内容説明的な記述：「環境因子」を使って、状況を詳しく説明するもの

今日は、マンションの玄関に入ってからエレベーターまで白杖を使って一人でやらせました。「白杖がぶつかるまで」までと言ったら、上手にできました。

小4 男子母記述

a4600（自宅内の移動）． 2

e1201（個人的な屋内外の移動と交通のための支援的生産品と福祉用具）． +4

e310（家族）． +2

2. 「主観」の記述も多い

1) 本人の「主観」を推測するもの、代弁するもの

初めての交流給食に行きました。が、自分が給食を食べる場所ではないと思って大暴れしました。結局あきらめて1組で食べました。お腹が減っている上に長い間待たされるのが、ワケがわからず、何度か切れました。

小6 女子担任記述

2) 記述者の「主観」を記述するもの

給食のメニューは「キーマカレー」だったとのこと。ずいぶん専門的な言葉が出るようになったものだと楽しくなりました。

小6 女子母記述

[考察]

本研究の分析から、連絡帳の記述文は、教師・保護者の書いたどの文章も、大部分がICFのコードに適応していることが明らかになった。（ただし、主観の記述に関しては、現在のICFには取り入れられていないが、ICIDHからICFへの改訂過程でも議論され、ICF付録に今後の重要課題であると明記されていることから、分類の対象とした。）このことから、連絡帳の記述文は非常に有用な情報を豊富に示しており、連絡帳の記述を整理することは、児童生徒の生活機能を把握し、指導計画等に生かすことができるものになると考えられる。毎日のやりとりであるという意味においても、家庭と学校という生活の主な場である二つの場面での生活を把握できる点においても、連絡帳に貯蔵される情報は量・質ともに非常に貴重なものであるといえるだろう。

本研究ではICFのコードと第一評価点を使って記述文の分析を試みたが、記述文からICFのコードを引き出す作業は容易ではなかった。ICF

のコードに分類することは、日常的に行う作業としては実用的ではないと思われた。

一方、本研究では、連絡帳の多くの記述が「実行状況」を中心に、「能力」や「環境因子」「主観」で分析・説明するものであることが分析された。そこで、連絡帳の記述文を日常的に整理する指標として、「実行状況」と「能力」を主軸にした分類が有効ではないかと推察した。連絡帳の片頁に、実行状況・能力・その他のレベルを示した表をつけ、毎日の記述をこの表で整理する方法などが考えられる。（図1）

図1

●月×日

担任

算数；買い物のごっこをしました。今日は二人きりだったので、変化がなくいまひとつでした。模型のリンゴとバナナを買うのに、50 円と 100 円の比較をしました。穴が開いている開いていないを確かめましたが、乗らなく、「はとぽっぽ」を歌ったりして集中しませんでした。

体育；公園に行って、滑り台やブランコをしました。外のほうが気持ちよくて好きだったのかな。

音楽；「歌えバンバン」、「小熊の 2 月」リコーダー。集中してしたそうです。

●月×日

母

算数のお金の区別、おじいちゃんとやってみました。穴の有無も、ツルツルかどうかはわかっていないようでした。おじいちゃんとこれからはふざけないで勉強すると約束したので、今度身が入らなかったら言ってみてください。

今日は音楽のレッスンもありました。T は直前にトイレに行ったのに、途中で「疲れた〜」が効かないと「トイレ！」の手を使おうとしました。行ったばかりなのをご存知の先生が「終わってからね」と少し厳しく接すると何とか最後までやっていました。

	実行状況	能力	環境因子	主観	心身機能	身体構造	個人因子
内 容	買い物(金)	触覚 (硬貨)	一対一 祖父約束		集中力		
点	4	4	-3+?	...	4		
内 容	公園			外が好き			
点	0			...			
内 容	リコーダー				集中力		
点	0			...	0		
内 容	音楽レッスン		音楽教師		集中力		
点	3		+4	...	3		
内 容							
点				...			
内 容							
点				...			

毎日の連絡帳をこのように整理していくことで、現状を「実行状況」中心に分類して評価することができ、環境因子・主観などさまざまな要素との関連も記録することができる。しかし、記入にあたっては「実行状況」と「能力」の概念等 I C F の概念理解がある程度できていること、I C F の項目がある程度記憶されていることが条件となるだろう。

[参考文献]

（独）国立特別支援教育総合研究所（2007）『ICF 及び ICF-CY の活用』, ジアース教育新社.

厚生労働省大臣官房統計情報部（2007）『生活機能分類の活用に向けて(案)』

障害者福祉研究会(2002)『ICF 国際生活機能分類』, 中央法規.